

【 P 計 画 】

- 令和 5 年年間転倒転落発生率 2.26% (全国平均 2.78%)
令和 5 年度転倒転落レベル 2 以上 0.02% (平均値 0.108%)



- 目標：転倒転落による 3 b 以上の報告ゼロ
- 計画の POINT
キャッチセンサーベッドⅡ・Ⅲの活用促進、また療養環境から危険場面を予測し、改善につなげる。

※ 全国自治体病院協議会「医療の質評価・公表等推進事業」へ参加
当院の転倒転落レベル 3a は、全国自治体協議会の転倒転落レベル 2 相当



【 D 実 行 】

- 看護部セーフティマネジメント委員会と連携し、転倒転落報告事例から部署毎に危険の特性を分析する。
- 病棟ラウンド（リスクマネジャー・セーフティマネジメント部会）で患者の療養環境の危険箇所の確認を行う。
- 患者が使用するキャッチセンサーベッドⅡ・Ⅲの使用方法的なレクチャーを実施する。
- 放射線科・リハビリ科等での患者が転倒転落しやすい場面を描き、実際の事例を用いて KYT 学習と注意喚起を行う。



【 A 改 善 】

- 転倒転落発生率は、(R5) 2.26%→(R6)2.20%と改善したが 3b 以上報告ゼロの目標は達成しなかった。部署毎の対策および患者の個別性に応じたアセスメントの強化を図る。
- 療養環境に潜む危険について、各部署のスタッフに浸透するよう情報伝達と周知を行う。
- キャッチセンサーベッド説明会の参加率を上昇させるために、研修の時間帯や研修デザインなどを工夫する。
- 転倒転落リスクの高い患者にキャッチセンサーベッドⅡ・Ⅲが、より十分に使用されるよう指導を行う。



【 C 評 価 】

- 転倒転落件数
令和 6 年年間転倒転落発生率 2.20% (全国平均 2.83%)
事象レベル 3a 以上報告 24 件・3b 以上報告 6 件
- ラウンド
➡セーフティマネジメント部会が毎月 1 回多職種ラウンドを行い情報共有と改善策を立案し、危険への意識が高まった。
- キャッチセンサーベッドⅡ・Ⅲの使用方法的なレクチャー
➡業者による説明会を開催し、離床キャッチセンサーベッド説明会に 41 名・赤外線センサー説明会に 11 名参加した。
- KYT 事例共有・検討
➡看護部セーフティマネジメント委員会の転倒転落対策グループが KYT 資料を作成し、10 月に事例検討・11 月に KYT 研修を実施した。